

令和5年4月20日

三井不動産株式会社
代表取締役社長 植田 俊 様
宗教法人明治神宮
宮司 九條 道成 様
責任役員 収益部門統括担当
明治神宮外苑苑長 石井 拓蔵 様

佐賀県鹿島市大字高津原 434 番地
一般財団法人田澤義鋪記念館
理事長 白川 幸一郎
館長 永池 守

明治神宮外苑再開発事業に係る樹木の保存に関する要望

緑豊かな景観を誇る明治神宮外苑は、都内の中でもひととき目を引く憩いの場として多くの人々に愛されており、その造営作業には、我が郷土の偉人田澤義鋪先生と多くの全国の青年団が、勤労奉仕にて従事しました。

田澤義鋪先生は、明治 18 年に佐賀県鹿島の地で生まれ、東京帝国大学法科大学政治学科に学び、25 歳で静岡県の安倍郡郡長になり青年団活動を開始。30 歳で明治神宮造営局総務課長になります。35 歳で労使協調会の常務理事、37 歳でジュネーブ国際労働会議に出席。39 歳で東京市助役に就任と数々の要職をこなしながらも①青年団運動②労働問題③政治教育④選挙粛正⑤女性の政治参加を求め続けたふるさとの偉人です。まさに現代日本の設計者と言っても過言ではありません。これらの運動は戦後、労働問題は労働法制に整備され、政治教育は教育基本法に盛り込まれ、選挙粛正は明るい選挙推進運動につながり女性の全面的な政治参加が実現しています。

そして、田澤先生が明治神宮造営局総務課長の時に呼びかけた青年団（1 都 3 府 43 県の青年団から延べ 11 万人）が 4 年間にわたり明治神宮内苑のみならず外苑の造営工事に携わっております。そして、その功績に対し当時の皇太子殿下より令旨を賜ったと聞いております。明治神宮が完成した時には、正式に青年団の代表による参拝が許され、全国の 300 万に及ぶ青年団らは、田澤先生の参拝と同時に明治神宮の方向を向いて頭を下げ、皆涙したと聞き及んでおります。全国の青年団による勤労奉仕によって出来上がった明治神宮の内苑・外苑の森は、全国各地の青年団が造ったと言っても過言ではありません。これは、まさに国民の財産で宝物です。

この明治神宮の森の造営の背景を鑑みますと造営に携わった当時の田澤先生の思いや国民の思いを後世に残すためにも、歴史的にも重要な樹木を伐採するのではなく移設等の措置により保全いただくように切にお願い申し上げます。

特に鹿島市では、平成 30 年に明治維新 150 年記念事業を行い、田澤先生の顕彰事業を開催しました。その時は、田澤先生の 80 年間封印の日記を翻刻し「日記が語る田澤義鋪の実像」を刊行、さらには B&G 財団の補助を受け「マンガふるさとの偉人田澤義鋪～鹿島が生んだ現代日本の設計者」も刊行し、改めて地域の小学校、中学校・高校で出前授業を実施しています。

そこでは田澤精神を学び、政治教育にも取り組んでいます。その授業の中で明治神宮の森の造営についても学んでいます。小学校 6 年生の「ふるさと学習」では、あの明治神宮の森を田澤先生や全国の青年団が勤労奉仕で行った素晴らしい事業として受け止めています。田澤精神の「一事貫行」の具現化として受け止めてくれています。

この精神は、田澤先生が生涯持ち続けられた精神で、『平凡道を非凡に歩め』のごとく、「やること自体は必ずしも派手でなくていい。他人と同じ道を歩みながらも、他人の何倍も努力して続けて行けば遂には大きな成果を為す。そして同時に人格も修養されていく。」という精神で『一事貫行』の精神と同列のものです。

つまり、一つのことを最後までやり遂げ貫き通すことで人格の修養もなされるもので、この青年団の壮大な神宮造営事業がまさにその一つの例として、児童生徒は理解してくれています。

このように田澤義鋪生誕の地で顕彰事業を行っている田澤義鋪記念館としての要望をお聞き入れてくださいますように、何卒、切にお願い申し上げます。

※ 田澤義鋪記念館で活用している以下の 2 冊の本を同封いたしますので、読んでくだされば幸いです。よろしく申し上げます。

- ・鹿島歴史文庫 田澤義鋪～今につながる政治教育の「源流」～
- ・マンガふるさとの偉人田澤義鋪～鹿島が生んだ現代日本の設計者